

苦小牧市社会福祉協議会 令和6年度(2024年)事業実績報告
 「ともに支えあい みんなの笑顔が見えるまちづくり」

令和7年3月31日現在

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和6年度の事業実施内容	令和6年度実績	令和5年度実績
社会福祉事業拠点								
企画広報事業		1	社協だより発行業務 (総務課)	基本目標3 地域から信頼される 社協づくり「まち」	4. 7. 10. 1月 年4回発行 発行部数86,800部×4回 全戸配布 ※世帯、社協2号会員の増加のため発行部数200部増	苦小牧市社協の活動を発信し知らせることから始まり、地域の課題や現状を共有し、幅広い年代と一緒にアクションを起こしてもらうことを目標に情報発信を行った。また、音声データ版や点字版の社協だよりの発行を朗読奉仕団、点訳奉仕団に協力いただき多様な発信を実施した。	年4回発行 193号～196号発行 347,200部	年4回発行 189号～192号発行 346,400部
地域福祉推進事業		1	生活支援コーディネーター事業 (地域福祉課)	基本目標2 笑顔あふれる 地域づくり「ちいき」	(1)生活支援・介護予防サービスのコーディネート ①地域の高齢者支援ニーズ及び地域資源の把握、問題提起 ②資源開発 ③担い手養成・意識醸成 ④個別支援 ⑤関係者との協議 (2)多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取り組みの推進に関すること。 ①犬・猫一時預かり事業 ②地域包括ケア会議参加による地域ニーズの情報共有や把握、社会資源の構築 (3)コミュニティソーシャルワーカーと兼務し、地域支援を行う。 ①担い手活動支援(だけボラ)事業 ②移送支援事業(苦小牧市訪問型サービスD事業) ③重層的支援体制整備に向けた取り組み (4)町内会、自治会において「声かけ・見守り活動」の支援対象者を拡大し、社会的孤立を防止し地域の 悩みや不安を解消させ合いの環境づくりを推進 ①生活支援コーディネーターSNS活用(FB・Instagram・LINE・YouTube運用、スマホ講座等) (市内全域にてポスター・チラシ等による周知活動・周知説明会の開催)	各団体の状況確認(アンケート調査)※地域活動のデジタル化について ネットワーク会議の開催・推進(見守り活動の推進) 地域包括支援センター主催個別・圏域会議への参加 地域包括支援センター連絡協議会との情報共有 介護予防:「パワフルシニア」の推進 ・犬・猫一時預かり ・担い手活動支援(だけボラ)事業 ・ハートマSTS事業(勇払・樽前) ・重層的支援体制整備移行準備事業受託「社協ベース」の開設 ・デジタル講座(スマホ・ZOOM等) ・買い物困難地域救済(協力店舗:コープさっぽろ・ふじい薬局・豊友) ・終活支援サポート事業(死後事務委任ほか)	(1)① 108件 ② 247件 ③ 164件 ④ 64件 ⑤ 106件 (2)① 36件預かり ホウ 46名、猫 44匹、犬 12匹 ②個別ケア会議 35回 圏域会議 4回 (3)①ボランティア活動者延べ 852人 ②活動日数 293日 利用者延べ303名 (4)①スマホ講座1回	(1)① 100件 ② 249件 ③ 181件 ④ 56件 ⑤ 146件 (2)① 28件預かり ホウ 42名、猫 40匹、犬 21匹 ②個別ケア会議 31回 圏域会議 2回 (3)①ボランティア活動者延べ 1,006人 ②活動日数 292日 利用者延べ 94名 (4)①スマホ講座4回
		2	CSW事業 (地域福祉課)	基本目標1 安心して暮らせる 支援体制づくり「ひと」	高齢者や障がい者等に限らず、幅広い世代で抱えている課題や地域の課題について把握し、その課題解決のための地域資源づくりや支援等について地域の方々や関係機関との連携と対策を検討 市内7包括圏域に各1名を段階的に配置する。 (市内全域にてポスター・チラシ・SNS等による周知活動・周知説明会の開催) 重層的支援体制整備に向けた取り組み	CSW1名増、7名体制にて活動 ひきこもり・不登校支援居場所づくり ・不登校家族座談会 風まち(偶数月第3木曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 中央店(毎月第2水曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 東店(毎月第4水曜開催) ・コミュニティカフェ igocoti 西店(毎月第2火曜開催) ※igocoti参加者による作品展 R6実施 ・ヤングケアラーカフェ kamakura ・職業体験会(※内装壁張り体験ほか) ・CSW農園:と・いろ(意味:…十人十色) ・居場所「とまとも」奇数月(ひきこもり当事者、家族の居場所) ・苦小牧市社協CSW LINE相談	相談90件(内、来所 18件) 支援32件、継続20件、終了60件 風まち:実施回数 6回 参加者61名 igocoti(中央店):実施回数 12回 参加者276名 igocoti(東店):実施回数 12回 参加者121名 igocoti(西店):実施回数 12回 参加者155名 kamakura(4時間)実施回数 11回参加者数148名 kamakura(2時間)実施回数 7回参加者数117名 職業体験会 3月4日開催(三星 参加者5名) 農園と・いろ:実施日数 11日 参加者51名 居場所とまとも 実施回数 5回 参加者146名 登録数222人 相談件数31件	相談122件(内、来所20件) 支援22件、継続 23件、終了13件 風まち:実施回数 6回参加者64名 igocoti(中央店):実施回数12回 参加者350名 igocoti(東店):実施回数9回 参加者124名 igocoti(西店):実施回数8回 参加者95名 職業体験会 2/23開催 参加者6名 農園と・いろ:実施日数 10日 参加者延べ32名 とまとも 実施回数 4回 参加者68名 登録数111人 相談件数13件
		3	かぎ預かり事業 (地域福祉課)	基本目標1	社協へ申込一依頼者居住地近郊の協力施設にて鍵保管(24時間対応)→事業協力員が鍵を取りに行き安否確認を行う。	かぎ預かり事業への理解・周知(ポスター・パンフの作成・説明会の開催等)に努め、協力施設、利用者の増を図った。	3月末:預かり 55件 3月末:協力施設 12件	預かり 39件 協力施設12件
		4	ふれあいサロン事業 (地域福祉課)	基本目標2	地域が運営するサロン開設をサポートし、地域住民の社会参加・見守り・安否確認・情報共有の推進を図る。	出前サロンを中心にPR活動を推進し、町内会区域において1サロンを目指した。	3月末:登録数 91ヶ所	登録数 86ヶ所
		5	介護支援いきいきポイント事業 (地域福祉課)	基本目標2	40歳以上の市民を対象に登録研修会を開催し、登録者本人の介護予防と要介護・要支援状態の方に対する地域の支え合い活動の推進を図る。	登録者のスキルアップ研修交流会を開催した。また、在宅高齢者支援活動を推進した。	3月末:登録数 284名 登録者スキルアップ研修交流会 3回開催	登録数269名
		6	無縁仏供養法要事業 (総務課)	基本目標1	市内で身元が判明しないままお亡くなりになられた方、社会の移り変わりによって、縁者を失ってしまった方々のお盆供養として毎年8月に、仏教会の協力により開催	開催日時に合わせて、例年同様に仏教会の協力要請を行った。また多くの市民に参列していただくようホームページ等で周知を図った。	8/23開催 参加者47名(内一般参加22名)	8/23開催 参加者40名
高齢者福祉推進事業		1	愛の一声運動 (総務課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上のひとり暮らし及び高齢世帯で安否確認が必要と認められる方からの申請を受け、乳酸菌飲料の配布を行い安否確認を実施する。	安否確認必要時に速やかに確認ができるよう、関係機関との情報共有を図った。	3月末:登録世帯 280世帯 配付利用者実績 3,423件 安否確認件数 186件	登録世帯275世帯 配付利用者実績3,301件 安否確認件数 160件
		2	給食サービス事業 (総務課)	基本目標1	市内に居住する65歳以上の高齢や障がい等で調理や買い物等が困難な方へ配食し、栄養面の安定を図る。配食時に安否の確認を目的とし実施する。(利用者負担1食400円)	・利用者増を図るためチラシ等を活用し、市民や関係機関等へ情報を発信に努めた。 ・年に1度利用者に変化がないかモニタリングを行い利用者の現状把握に努めた。 ・居宅介護支援事業所等を対象とした試食会をとおし、改めて安否を目的とした事業の理解と周知を図った。 ・緊急連絡先が市外、身寄りのない方などには、社協のかぎ預かり事業なども支援として検討してもらうよう関係機関と情報共有を図った。	3月末:登録者 245件 配食利用者実績 2,584件 安否確認件数 93件・モニタリング191件 居宅介護支援事業所等を対象とした給食サービス試食会の開催 11月28日 参加者 25名(市、2包括、11介護事業所) 6事業所の弁当を試食 ※1力所不参加	登録者252件 配食利用者実績 2,919件 安否確認件数77件・モニタリング207件
		3	在宅介護リフレッシュ事業 (くらし支援課)	基本目標1	在宅介護者の心身のリフレッシュと介護者同士のつながりをつくることを目的として、研修や体験活動と1泊の温泉宿泊・日帰り旅行を各1回開催	感染症対策を図りながら、対象となる多くの方々には事業を認知していただき、参加していただくように努めた。	第1回 6/26 18名参加 小樽市(日帰り) 第2回 11/14 14名参加 支笏湖(日帰り)	第1回 6/28 21名参加(北広島市他観光) 第2回 10/25～26 日帰2名、宿泊6名(登別)

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和6年度の事業実施内容	令和6年度実績	令和5年度実績
ボランティアセンター事業		1	ボランティア体験プログラム事業 (地域福祉課)	基本目標2	(1) ボランティア体験メニューの活動を通じてボランティアへの理解や関心を広げ、登録ボランティアの拡大を図る。	・見学、体験を通じ、ボランティアや市民活動のきっかけづくりや自分たちの住む地域や暮らしについて関心を深めていけるメニューの作成。	(1) 63メニュー 参加者 23名	(1) 51メニュー 参加者 23名
		2	傾聴ボランティア養成事業 (地域福祉課)	〃	(2) 「ボランティア養成講座」を開催し登録ボランティアの拡大を図る。(各講座年1回)	・個々のコミュニケーション力の向上と日常生活やボランティア活動に生かし、今後のボランティア活動者の人材育成を図った。	(2) ①傾聴講習会 3月21日(金)開催 参加者60名 ②やさしい日本語講座 兼登録ボランティア研修交流会 3月17日(月)開催 参加者31名	(2) ①傾聴講習会 3月23日開催 参加者 54名 ②やさしい日本語講座 2回開催 参加者15名
		3	災害ボランティアセンターの整備 (地域福祉課)	〃	(3) 防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催する。 ①一般市民を対象に「防災ボランティア講座」を開催(3会場で開催) ②小学生とその保護者を含む家族で構成されるグループを対象に「家族でチャレンジ! 防災シミュレーション」を開催。 ③防災ボランティア登録者を対象に「防災ボランティア登録者研修交流会」を開催(年2回開催)	・未登録者対象の防災講座を開催することで登録者増を図り、被災時の共助体制構築につなげた。 ・苫小牧市の未来を担う若い世代へアプローチし、防災・災害及び防災・災害ボランティア活動に関する学び合いの場を設け、新たな繋がりを図った。 ・防災ボランティア同士の交流の場を設け、情報交換と防災に関する意識及び知識等のスキルアップを図り、災害時の適切な防災活動につなげた。	(3) ①参加者 48名(3回開催) 新規登録者 12名 ②2/11(火 祝日)開催 参加者 6家族19名 ③ 防災ボランティア登録者研修交流会 第1回 8/19(月) 参加者41名 第2回 2/8(土)開催 参加者47名	(3) ①参加者 51名(3回開催) 新規登録者 11名 ②12月9日開催 参加者 4家族16名 ③第1回 9月23日開催 参加者38名 第2回 2月3日開催 参加者44名
		4	ボランティアスクール事業 (地域福祉課)	基本目標2	(4) 小中高生それぞれを対象としたボランティアスクールを実施し若年層のボランティア育成を図る。(年1回)	・児童、生徒のボランティア活動に対する理解を深め、主体的学びや自主的な活動に結び付け事業を展開した。	(4) ①小学生の部 12/7(土)開催 参加者 11名 ②中学生の部 9/15(日)～9/16(月 祝)開催 参加者 27名	(4) ①8月8日～9日開催 小学生の部 参加者20名 ②7月17日開催 中学生の部 参加者17名
		5	雪かきボランティア事業 (地域福祉課)	基本目標1	(5) 高齢・障がいにより自力での除雪が困難な世帯に対し除雪支援を行う。	・ボランティアと地域住民活動を調和させながら除雪支援の継続を推進した。	(5) 1,073件(延べ件数)	(5) 1,737件(延べ件数)
		6	市民ボランティア講座開催 (地域福祉課)	基本目標2	(6) 市民に広くボランティアに関する理解を深めてもらうための活動として実施(年1回)	・ボランティア、市民活動への興味・関心を深め、他の事業や体験プログラムなどへの参加を促すよう努めた。	(6) 7/8(月)開催 参加者 43名	(6) 6月27日開催 35名 【分科会】 ①「高齢化社会」 7月12日開催 参加者19名 ②「障がい児・者の困りごと」 7月21日開催 参加者11名 ③「子どもたちの生活」 7月26日開催 参加者8名 ④「ペット問題」 8月4日開催 参加者8名
		7	ボラセンフェスティバル開催 (地域福祉課)	〃	(7) ボランティアセンター事業のPR、活動者間の交流、市民ボランティア活動の活性化を目的として開催	・個人、団体の活動者同士の交流やつながりを広げボランティア活動の活性化を図った。	(7) 11/9(土)開催 来場者571名 ボランティア109名(延べ)	(7) 10月28日開催 490名
		8	ボラセン・ギャラリー開催 (地域福祉課)	〃	(8) ボランティアセンター登録団体及び個人の活動と、ボランティアセンター事業をパネル展示でPRし、新たなネットワークの広がりを目指す事を目的として開催	MEGAドンキホーテで開催。 ボランティアセンター登録団体、体験プログラムメニュー、ボランティアセンター主催事業、各種講習会、研修会などをパネル展示を使用して紹介。	(8). ①3月7日～9日開催 MEGAドンキホーテ 203名 うち、新規登録者3名 ②協力ボランティア 16名 ③新規登録者 3名	(8). ①3月8日～10日開催 MEGAドンキホーテ 174名 うち、新規登録者2名 ②協力ボランティア 13名 ③新規登録者 2名
		9	登録ボランティア研修交流会	〃	(9) ボランティアセンターに登録している個人・団体ボランティア同士の情報交換や交流を通じた学び合いの場として開催	「令和6年度多文化共生・やさしい日本語講座」を兼ねて開催。 福祉の学習でのボランティア活動の協力など、募集中のボランティア活動について案内。	(9). 3月17日(月)開催 参加者31名 ※やさしい日本語講座を兼ねて開催	(9). 2月15日開催 48名
		10	福祉学習推進事業 (地域福祉課)	〃	(10) 市内の小中学校や地域を対象に介護の体験・疑似体験・当事者講話などを通して他者を理解する等の授業を実施	・学校や地域に対しての福祉教育の充実を目指し、プログラムの内容や講師を実施した。	(10). 17校 延べ 122学級 「福祉の学習推進セミナー」 6/10(月)開催 参加者 11名	(10). 市内小学校19校 延べ124学級
		11	おしゃべりカフェPeace開催	〃	(11) 一人ひとりのペースで自由に過ごすことができ、不安や悩みごとに寄り添って一緒に考えてくれる人がいる「居場所」の提供をし、児童・生徒の孤立防止と社会的自立を目的として実施	・ココトマにて、おしゃべりカフェPeace(6月より毎月第3火曜日開催)	(11). 実施回数 9回 参加者228名(延べ)	(11). 実施回数 9回 参加者228名(延べ)
		12	点訳・朗読ボランティア養成事業	〃	(12) ①点字、点訳体験を通して、視覚障がいについての理解と点字(点訳)の必要性を学び、点訳ボランティアを養成することを目的として開催 ②朗読(音訳)体験を通して、視覚障がいに関する理解を深め、朗読の重要性を知り、朗読ボランティアを養成することを目的として開催	①点訳の基礎知識を学ぶ ・ 実技演習とパソコンを使用した点字体験 点訳赤十字奉仕団の活動紹介 ②朗読の基礎知識を学ぶ ・ 朗読の実践(文章の読み方と実習) 朗読赤十字奉仕団の活動紹介	(12). ①4回開催 7名 ②4回開催 6名	(12). ①4回開催 8名 継続者1名 ②4回開催 14名
		13	絵本読み聞かせボランティア講習会の開催	〃	(13) 読み聞かせが子どもたちの成長にもたらす効果や技法について学ぶ機会を設け、これを習得した市民が読み聞かせ活動を行うことにより、子どもたちの健全育成とボランティア活動の充実を図ることを目的として開催	・子どもたちの健全育成とボランティア活動の充実を図った。	(13). 9/18～10/2 計3回実施 参加者73名(延べ) 「フォローアップ研修」 12/16～12/19 計3回実施 参加者19名	(13). 9/18～10/2 計3回実施 参加者73名(延べ) 「フォローアップ研修」 12/16～12/19 計3回実施 参加者19名
福祉人材バンク事業		1	福祉人材バンク委託事業 (総務課)	基本目標2	胆振・日高管内を担当エリアとし、福祉職への就職を希望する求職者と福祉職を求める施設・事業者とのマッチングを目的とし、福祉職場説明会やマンパワー活用研修を企画実施する。また、ハローワークでの出張相談(室蘭・伊達・静内・浦河 月1回)を実施。 職業安定法に基づき厚生労働大臣から認可された福祉の仕事専門の無料職業紹介事業(許可番号:01-M-190001) ①求職・求人登録、マッチング ②市民活動センターで相談対応(月～金、9時～17時) ③ハローワークでの出張相談(苫小牧毎月第1.3火曜日、室蘭・伊達・静内・浦河 月1回要予約)を実施 ④福祉職場説明会の実施 ⑤福祉に興味を持ってもらうためマンパワー講習会を企画実施 ⑥インターネット求人システム「福祉のお仕事」で24時間求人情報の提供	・福祉職場説明会を苫小牧と室蘭の2カ所で開催し、行政、福祉養成校や高校、関係機関との情報共有を図った。 ・来所による相談者へ職場見学や面接、就職後もサポートを実施し、マッチングは昨年度より増となった。 ・福祉職未経験者でも参加しやすい研修会を開催し、福祉人材バンクのPRを行い多様な人材の参入促進に努めた。 ・求職者の登録や事業への参加に繋げるため、新聞、フリーペーパー、社協だより、社協HP、苫小牧市の公式LINEを積極的に活用した。また、新たなPRとして地元ケーブルテレビやFMラジオを活用した。 【マッチング状況】 施設介護職10名、施設相談・支援・指導員2名、相談支援機関等1名、社協職員2名、事務職6名	①求職者 113名、求人 275件 マッチング成功 21件 (内:福祉職場説明会 6件) ②相談対応121件(来所34件、電話87件) ③ハローワーク苫小牧6件、室蘭3件、伊達1件 ④福祉職場説明会 (苫小牧)8/27 参加者 15名 法人事業所 14カ所 (室蘭)10/29 参加者 3名 法人事業所 8カ所 ⑤マンパワー講習会同日開催 「ケアニン」上映 B型就労支援施設マルシェ 120名	求職者 117名 求人 375件 マッチング成功 10件 相談対応184件(来所29件、電話155件) ハローワーク苫小牧6件、室蘭2件、伊達0件 福祉職場説明会 (苫小牧)8/3参加者11名 法人参加13カ所 R6.1/17参加者22名 法人参加13カ所 (室蘭)R6.2/2 参加者11名 法人参加6カ所 マンパワー講習会2/13 絵本を作りながら認知症について理解を深める 14名

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和6年度の事業実施内容	令和6年度実績					令和5年度実績				
							第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
法人運営事業		1	理事会・評議員会 (総務課)	基本目標3	理事会及び定時評議員会・臨時評議員会・役員研修会を開催 理事7名・監事2名(任期:令和5年度定時評議員会から令和7年度定時評議員会最終時まで) 評議員9名(任期:令和3年度定時評議員会から令和7年度定時評議員会最終時まで)	・理事会、評議員会における情報共有を行い、ガバナンスの強化を図るとともに関係法令、本会諸規程を遵守しコンプライアンス強化を推進し、適正な運営に努めた。 ・健康経営の観点から役員を対象に「ウォーターヘルスで実践できる健康経営」研修会を実施した。	【理事会】 6/6 9/17 12/12 3/19 【評議員会】 6/21 9/26 12/20 3/27	第1回 第2回 第3回 第4回	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回	6/8 6/23 9/19 12/14 3/14	6/23 10/3 12/22 3/22 ---	【役員研修会】12/12、12/20 「ウォーターヘルスケアで実践できる健康経営」 第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期 【監査】 8/16 11/21 2/17 5/16 【会費】納入額 6,599,800円 1号 135件、2号 233件、普通 82件 合計 450件 ※1号・2号会員は4月依頼、普通は7月依頼 登記届出:6月24日 ①道社協主催 地域福祉推進に係るリスクマネジメント 研修(オンライン:管理職・係長主査職18名) ②12/11 レベルアップ研修 仕事を進める上での基礎的なスキルの再確認(一般職・専従職員24名) ・1/14 次世代リーダー研修 役割や目標達成の行動を学ぶ(30、40代対象13名) ・北洋大学よりインターンシップ1名受入 8/13~8/30 ・岩見沢高等養護学校より職場体験実習生1名受入 10/9~10/11 福祉車両 30件 車いす284台				
		2	監事監査 (総務課)	〃	四半期及び決算時に職務執行状況及び財務監査を実施し理事会・評議員会へ報告	定款に基づく、財務・事業の状況報告を定期的に実施した。							第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期 8/24 11/21 2/15 5/16 納入額 6,489,250円			
		3	社協会費募集 (総務課)	〃	社協財源確保のために賛同会員の加入促進を図る。	社協だより及びホームページ等で広く社協会員制度の周知を図ると共に、市内の企業、団体、また、地域住民に対して会員拡大に向けた呼びかけを、社協全体で取り組んだ。また、苫小牧市民のための福祉事業に活用されていることがわかるよう社協リーフレット、社協だより及び社協HPで使途の情報を提供した。	1号 135件、2号 233件、普通 82件 合計 450件 ※1号・2号会員は4月依頼、普通は7月依頼							1号145件、2号232件、普通 82件 合計459件		
		4	労務・財務管理(総務課)	〃	職員の労務管理及び会計基準に基づく財務管理と関係機関への各種届出・申請・登記	法令の改正に合わせた規程の改訂や関係機関への法令に基づく届け出等適正な運営に努めた。 5.①管理職・係長主査職を中心に、法令遵守や不祥事防止の徹底を図ることを目的に、道社協主催のリスクマネジメント研修を受講し、職員の意識向上を図った。 ②一般職員を対象としたレベルアップ研修、リーダー育成研修を開催し、仕事を進める上での基礎的なスキルの再確認、次世代リーダーとしての役割や目標達成の行動を学ぶ研修会を実施した。職員からは、研修の内容を意識し習慣化するなどの意見もあった。今後も、業務スキルの向上とリーダー職員の養成を行うためにも研修会を継続する。	登記届出:6月24日							登記届出:6月28日		
		5	職員研修 (総務課)	〃	職員のスキル向上やコンプライアンス体制の構築										職員研修:コンプライアンスについて 開催:11/20 出席53名・オンライン2名	
		6	その他	〃	苫小牧市内大学インターンシップの受入、職場体験実習の受入											
		7	福祉車両・車いすの貸出 (総務課)	〃	基本目標1	車いすが必要な方の社会参加の支援として福祉車両及び車いす貸出を行う。	ご家族の介護負担軽減や利用者の社会参加の推進に努めるため、車両及び車いすの無料貸出しを実施した。								福祉車両 26件 車いす296台	
市民相談事業拠点																
市民相談及び貸付事業		1	生活福祉資金・生活応急資金等貸付事業 (くらし支援課)	基本目標1	借入れの背景にある生活課題を把握し、その解決に向け関係機関と連携し資金貸付と相談を一体的に行う。 未償還世帯への訪問指導を実施し、世帯の生活状況を確認することで、潜在する困りごとの把握、必要な支援への繋ぎ、現状に合わせた返済計画の見直しを行う。	世帯の経済的自立と安定した生活に向けた相談対応と行政関係各課やその他の関係機関と連携を図りながら必要な支援を行った。 特別貸付借受者からの生活相談等対応(償還免除・償還猶予・償還計画の見直し、本則資金の借入相談等)を行った。	貸付相談 517件 コロナ特例貸付対応 1,098件 福祉資金貸付 16件					貸付相談 740件 福祉資金貸付 19件				
		2	市民相談事業 (くらし支援課)	〃	専任相談員による各種相談支援、及び弁護士(3名)による無料法律相談(月1回)を実施。無料法律相談については年3回夜間帯に実施する。 介護・育児・寝たきり・障害を理由に市民相談所に電話や来訪が困難な方を対象に訪問相談を実施。 年4回、市内コミュニティセンターを会場に出張市民相談を行う。うち年2回は夜間帯に実施する。	相談援助スキル向上を目指した係内での職員勉強会を定期的に実施した。 市民の相談窓口である市民相談所の周知を図るため、関係機関へのチラシ配布・ポスター掲示等周知活動を実施した。 各相談内容に応じ、弁護士及び他職種等の専門機関につなげる支援を実施した。	応急資金貸付 253件 福祉資金償還訪問指導 86件 応急資金償還訪問指導 52件 市民相談 881件 夜間相談 5件 出張相談 19件 法律相談 35件					応急資金貸付 252件 福祉資金償還訪問指導 58件 応急資金償還訪問指導 49件 市民相談 766件 夜間相談 3件 出張相談 9件 法律相談 32件				
		1	日常生活自立支援事業 (成年後見支援センター)	基本目標3	高齢や障がいにより日常生活の判断に不安があり、日常生活上における支援を希望される方に生活支援計画書を作成して、サービスの契約や日常生活上の金銭管理の支援を行う。	・専門員、支援員の交流とスキルアップ研修計画の作成・実施。 ・安心した生活を継続する為、必要に応じ、利用者の後見制度への移行支援。 ・市民・他機関に対しての周知活動。	委託分 20件 独自分 1件 支援員登録 34名					委託分 23件 独自分 2件 支援員登録 38名				
成年後見制度事業拠点																
法人後見事業		1	法人後見事業 (成年後見支援センター)	基本目標1	判断能力が不十分な方の権利と財産を守るため、家庭裁判所の審判に基づき、本会が後見人を受任し、養成した後見支援員と共に支援を行う。また、スキル向上の為に支援員研修や専門員研修を実施する。	受任要請に応じて行くための体制整備の継続及び受任後の支援対応スキル向上の研修等の実施。	苫小牧協受任 131件 (三町各社協受任) 安平 3件、むかわ 11件、厚真 4件 監督 14件					苫小牧協受任 134件 (三町各社協受任) 安平 3件、むかわ6件、厚真1件 監督 8件				
		2	緊急事務管理事業 (成年後見支援センター)	〃	虐待ケースなど、財産や健康の保護などが図れない場合等において、民法に基づいて緊急的に通帳、印鑑の保管及び年金の受け取りを本人とともに実施する。	日常生活自立支援及び、成年後見制度を利用する事を前提で、本人の通帳・現金等が何らかの理由で管理・執行ができない場合に限り、民法第697条及び第698条に基づき事務管理を行う。	新規数 4件 月預かり件数 10件					新規数 40件 月預かり件数 21件				
成年後見支援センター事業		1	成年後見支援センター事業 (成年後見支援センター)	〃	一市三町での成年後見制度活用に関する広報啓発、相談及び利用支援、受任調整を行う。市民後見人の養成研修(年3回※三町開催含む)、活動支援、親族後見人、専門職後見人の活動支援を行う。 ①市民後見人養成講座 ②市民後見人フォローアップ研修 ③TMネットワーク会議 ④受任調整会議 ⑤成年後見制度説明会・困りごと相談会(市内コミュニティーセンター等での開催) ⑥個別カンファレンス及び地域ケア会議	国の第Ⅱ期成年後見制度利用促進計画に基づき、苫小牧・東胆振三町・役場・町社協と共に地域の権利擁護支援を推進する。また、法定後見制度だけではなく身寄りのない人への支援等も苫小牧市と協力した。 ①市民後見人養成講座実施(全5回)を実施。 ②市民後見人のスキルアップや情報の共有、意見交換会の実施。 ③市内福祉専門職への困難ケース等支援のあり方の協議、検討の実施。 ④成年後見申立てケースの後見人候補者の協議、検討の実施。 ⑤市民向け成年後見制度の説明会及び相談会の実施。 ⑥個別カンファレンス及び地域ケア会議への参加。	市民後見人 86件(49名) 後見支援員 42件(32名) 【R6実績】 苫小牧・厚真・むかわ・安平 ①受講者 40名 8名 19名 R6開催無 (内登録)(25名)・(3名)・(16名)・ ②参加者 39名・6名・16名・12名 ③ 11回開催、相談件数 32件 ④ 12回開催、協議件数 72件 ⑤苫小牧 3回開催:説明会 72名、相談会 6名 厚真 1回開催:説明会 18名、相談会 2名 ⑥苫小牧 74件・3町 3件 【R6 後見制度及び権利擁護等の相談対応件数】 苫小牧 247件・3町 40件 (R6.7月~R7.3月電話及び訪問対応延べ3,059件)				市民後見人 76件(36名) 後見支援員 46件(35名)					

拠点区分	サービス区分	番号	事業名 (担当課)	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和6年度の事業実施内容	令和6年度実績	令和5年度実績
介護保険事業拠点								
	居宅介護支援事業	1	居宅介護支援事業 (くらし支援課)	基本目標1	要介護認定を受け、介護保険サービスの利用を希望する方に対し、ニーズの把握やケアプランの作成を行い、在宅生活を支援する。	自主研修を定期的に開催し、また外部団体主催の研修会等にも積極的に参加し介護支援専門員のスキル向上に努めた。 年度末の事業廃止に向けた利用者への説明と市内居宅介護支援事業所へのケース移管の調整を行った。	介護 1,193件 予防 151件	介護 1,671件 予防 166件
	認定調査事業	1	介護認定訪問調査事業 (くらし支援課)	基本目標1	苫小牧市以外の保険者(市町村等)より依頼された認定調査を実施	調査スキルの向上に努め、他保険者からの依頼は全て対応した。	他市町村 105件	他市町村 103件
	訪問介護事業	1	訪問介護事業 (くらし支援課)	基本目標1	ホームヘルパーを利用者宅へ派遣し、掃除・洗濯、買い物などの家事や、入浴などの身体介護を提供し、住み慣れた住まいで自立した生活が長く出来るよう支援していく。	多様な福祉ニーズに対応するため、自主研修を継続し、介護職員のスキル向上に努めた。処遇改善のための補助金や処遇改善加算の支給基準を維持継続した。 年度末の事業廃止に向けた利用者への説明と市内居宅介護支援事業所へのケース移管の調整を行った。	派遣回数 3,611回 (訪介 2,766回、総合 845回)	派遣回数 5,534回 (訪介 4,414回、総合 1,120回)
	障がい事業	1	居宅介護事業 (くらし支援課)	基本目標1	障がい者を対象とし、自立した暮らしを支えるためにホームヘルパーを派遣し、掃除・洗濯、買物等の家事、入浴などの身体介護や、視力に障がいがある方への同行支援を提供する。	障がいを持つ利用者の理解と多様なニーズに対応するため、定期的に自主研修を開催し、職員のスキル向上に努めた。 年度末の事業廃止に向けた利用者への説明と市内居宅介護支援事業所へのケース移管の調整を行った。	①居宅 621回 同行 169回	①居宅 1,548回 同行 345回
		2	移動支援事業 (くらし支援課)	〃	障がいにより、屋外等での移動に著しい制限がある方への外出支援を行う。		②派遣 45回	②派遣 30回
指定管理事業拠点								
	男女平等参画推進センター事業	1	男女平等参画推進センター事業 (男女平等参画推進センター)	基本目標3	男女平等参画に関する研修、講習、相談等の実施及び情報の収集、提供等を行う。 施設及び設備を男女平等参画活動のための利用に供する。	これまでの男女平等参画を推進するための事業に加え、令和6年4月1日施行の女性支援新法の啓発や女性を始めとした多様な視点での災害対応力強化につながるセミナー、居場所づくり、相談事業等の充実を図った。また、各部屋の美化、備品整備を行い、利用しやすい環境を作る。SNS等を積極的に活用しセンターのPR活動を行い、主に若年層や働き世代の新規利用者の増を図った。	利用件数 4,157件 利用者数 33,943人 利用料収入 2,514,700円 参加料収入 620,935円 【主な事業】 ①苫小牧LGBTs交流広場「ぼると」(1/25、3/1開催) ②コワーキングDAY(毎月最終月曜日開催) ③コワーキングDAY@プラスワークショップ(1/17、2/14開催) ④「カクレガ」若者のサードプレイス(毎月第1水曜日開催) ⑤女性のための起業相談(1/10、2/18、3/18常駐及び随時対応) ⑥女性弁護士による無料法律相談(3/18)	利用件数 4,181件 利用者数 35,639人 利用料収入 2,613,135円 参加料収入 596,500円
	市民活動センター管理運営事業	2	市民活動センター管理運営事業 (総務課)	基本目標3	市民活動センター管理運営業務を行う。	平成6年に設置し約30年が経過している活動センターをこれまで同様に安心安全に利用いただくため維持管理に努めた。また、年齢や性別および障がいなどに関わらず誰もが利用しやすいセンターとなるため合理的配慮をもって対応し、様々な利用者の立場に立ったホスピタリティを提供するため、受付職員の研修を実施した。センターの利用促進に向け、年に1回のアンケートや窓口での利用者の声を聞き、管理運営に反映させサービスの向上を図った。幅広い年代に利用してもらえる様、自主事業をととして地域や関係機関と連携・協働し地域活性化を図った。	利用件数 3,684件 利用者数 72,099人 利用料収入 1,894,545円 【アンケートの実施】期間10/15～11/15 回収 342件数 社協HPに結果掲載 ・3階和室のリニューアル(座敷→椅子) ・1階4階多目的トイレのバリアフリー化 【自主事業】 ア.6/22花壇づくり イ.1階ホワイエのテレビで健康体操を上映 ウ.市民ギャラリー絵画展3/19～3/23 24作品・来場者242名	利用件数 3,552件 利用者数 76,302人 利用料収入 1,901,700円 期間11/15～R6.1/15 回収 341件 ・1階バルコニーの設置(暑さ対策) 【自主事業】 ア.6/24花壇づくり イ.1階ホワイエのテレビで健康体操を上映